

国内貨物輸送量の見通し

単位：百万トン、()内は対前年同期比増減率(%)

機関	年度・期	2009年度			
		2008年度	2009年度	上期	下期
総輸送量 Total transportation volume		5,143.1 (△ 4.1)	4,937.3 (△ 4.0)	2,469.7 (△ 4.3)	2,467.6 (△ 3.7)
(建設関連貨物を除く輸送量)		3,022.8 (△ 4.5)	2,871.1 (△ 5.0)	1,443.8 (△ 6.0)	1,427.3 (△ 4.0)
鉄道		47.5 (△ 6.5)	44.7 (△ 6.0)	21.5 (△ 7.5)	23.2 (△ 4.5)
Railway					
JR		33.3 (△ 7.4)	30.9 (△ 7.2)	15.0 (△ 9.3)	16.0 (△ 5.1)
その他 Other		14.2 (△ 4.4)	13.8 (△ 3.3)	6.5 (△ 3.2)	7.2 (△ 3.3)
自動車 Automobile		4,696.9 (△ 4.2)	4,511.5 (△ 3.9)	2,259.1 (△ 4.2)	2,252.3 (△ 3.7)
営業用 Business		2,823.2 (△ 2.8)	2,730.2 (△ 3.3)	1,363.1 (△ 3.6)	1,367.2 (△ 3.0)
自家用 Personal use		1,873.6 (△ 6.2)	1,781.2 (△ 4.9)	896.1 (△ 5.1)	885.1 (△ 4.8)
内航海運 Coastal cargo transport		397.6 (△ 2.9)	380.2 (△ 4.4)	188.6 (△ 5.0)	191.6 (△ 3.8)
国内航空 Domestic air		1.003 (5.4)	0.935 (△ 6.8)	0.459 (△ 9.1)	0.477 (△ 4.4)

日通総研見通し

40年ぶり50億ト割れ

09年度 生産関連が6%減に

日通総合研究所(本社)「東洋」は二〇〇八・〇九年度の経済と貨物輸送の見通しを発表。景気回復は二〇一〇年度半ば以降に先送りされることに伴い、〇九年度の国内貨物輸送量は四十九億三千七百三十万トン(前年度比四・〇%減)と十年連続の減少、六九年度以来四十一年ぶりに五十億トを割る水準まで落ち込むと見通した。特に生産関連貨物の減少幅を六%程度と予測している。

経済は昨年十月時点から深刻の度を深め、〇九年の主要地域のGDP成長率見通しは、米国〇・九%減、ユーロ圏〇・七%減、アジア計五・三%増。

日本は世界経済の減速に加えて為替レートが円高水準で推移(一・九四・三三)して輸出の増勢が期待できない中、個人消費の伸び悩みと設備投資の落ち込みが続き、実質経済成長率は前年度の〇・八%減をさらに下回る〇・九%減と二年連続のマイナス成長が予測される。景気回復は二〇一〇年度半ば以降、しかもV字回復でなく低空飛行で回復するであろうと想定されている。

こうした中、国内貨物輸送量は〇八年度が十月時点の予測三・三%減をさらに下方修正し四・一%減となり、〇九年度は上期四・三%減、下期三・七%減と予測。消費関連貨物は個人消費の冷え込みを受けて三・四%減、生産関連貨物は設備装置や鉱工業生産がさらに悪化すると予測され

ることから六%減と九八年度のアジア経済危機以来の落ち込みだ。建設関連貨物は公共投資が小幅な減少にとどまることから二・六%減と見通した。

輸出機関別(表参照)に、これまで三年連続で下回った営業用自動車も〇八年度は十一月以降の落ち込みが大きく、〇九年度も引き続きマイナスとなる。国内航空も〇八年度は昨年四月から統計に入ったようバックが増分が一巡し、〇九年度は七年ぶりのマイナスになるとした。

国際貨物輸送量は、外資コンテナの輸出が〇八年度下期以降大幅に落ち込み、〇八年度一・四%減、〇九年度三・四%減に。輸入は個人消費の低迷や設備投資の落ち込みにより〇八年度一・五%減、〇九年度二・二%減に。国際航空は、輸出が〇八年度一・三%減、〇九年度七・九%減、輸入は〇八年度七・九%減、〇九年度四・三%減となり、輸出入ともに五年連続のマイナスが見込まれる。